

今日の一品

カタバミ



格技棟の東側に大きなコウヤマキが植栽されています。その木陰にかわいいハート型の葉を持つカタバミ *Oxalis corniculata* が黄色い花を咲かせています。レンガ(タイルかな?)の隙間に根を張り、小さいけれど堂々と咲いています。カタバミの葉にはシュウ酸が含まれています。食べることはできますが、ちょっと酸っぱいです。この黄色の花は、明るい時は開きますが、夜や雨の日など暗い時は閉じてしまいます。夜や雨の時は、花粉を運んでくれる虫はやって来ないので開いている意味はありませんね。でも、ヒトと違って神経のないカタバミはどうやって明るさを感じるのでしょうか、不思議です。

立高の敷地内に生えているカタバミには、葉の色が緑色の個体と赤い個体があります(右上写真)。葉の違いによって、生態的な適応度がどう違うのか、生理学的には何が違うのか、この形質は遺伝的にどんな特性があるのか、などなど課題研究のいい材料になりそうですね。

右下の写真はカタバミの果実と種子です。しなびたオクラのようなものが果実で、そこに付着している茶色の粒が種子です。左側の果実に付着している白い粒は、種子を被っていた膜です。カタバミお種子散布は自動散布という形式です。ちょっと触れただけでも、熟した果実から、種子がパチパチと勢いよく飛び出すことを経験した人もいるでしょう。どのようなメカニズムで、どれくらいの距離を、どの方向に飛ばしているのでしょうか、これもまた研究のテーマになりそうですね。



葉の色が赤いカタバミ



カタバミの果実と種子



ムラサキカタバミ
(*Oxalis corymbosa*)



オッタチカタバミ
(*Oxalis dillenii*)

立高には、外来種のムラサキカタバミ(南米原産)やオッタチカタバミ(北米原産)も見られます。それぞれ特徴的な形態をしていますので、ぜひ探してみましょ！

※ すべて立高内で撮影した写真です